

1. 基準規則の構成及び文言の変更

- ① U12世代における予測の許容、トラップ三要件の撤廃
- ② U12U15両世代における、黄色旗の基準変更
- ③ U12U15両世代における、都道府県における運用
- ④ U12U15両世代における、赤旗1回目に対応方法の変更
- ⑤ U12とU15で異なっていた部分について統一

2. 変更後の運用について

都道府県においては**2023年度からの適用を原則**とする。

2022年度のU15選手権（2023年1月）全国ミニ（2023年3月）での適用については各実施委員会にて決定する。

（都道府県予選では実施しない）

※マンツーマン基準規則については、2023年3月刊行のルールブックに反映させる。

1. マンツーマン推進を行う理由

なぜマンツーマンが必要か？（2018年4月リーフレット）

なぜマンツーマンが必要か？

技術委員会 / マンツーマン推進プロジェクト

第3版
2018.4

日本人選手の目標

- 素晴らしい運動能力を備え、
動ける選手を育てる
- ディフェンス意識が高く
国際トップレベルの選手を
止められる選手を育てる
- 低身長でも1対1が素晴らしい選手
1対1で圧倒できる選手を育てる



なぜマンツーマンが必要か？（2018年4月リーフレット）

マンツーマンをやるからこそ 生まれる技術・戦術がある

抜きにかかるドリブルアタック

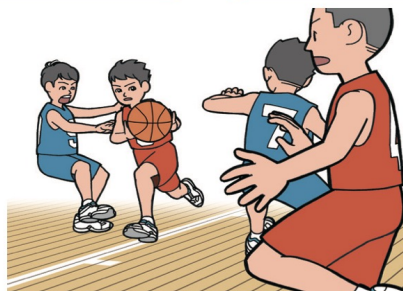
ドライブ&キック・スペーシング

1対1で打開できない時の2対2

etc.

ゾーンディフェンスに
起こりにくい
技術・戦術

育成年代で
基本プレーを
学ぶことが重要



9

育成世代の目標は 選手が成長すること

ゾーンは勝つための効果的な戦術
しかし育成の世代では勝つことよりも
もっと大切なものを学ばなければいけない

**1対1のオフェンス・ディフェンス
スペーシング・合わせの動きなど
バスケットボールの基本を学ぶことが必要**



高い技術を身につけるために



バスケットを楽しむために

だからマンツーマンを学ぼう

ゾーンの練習時間を基本技術（ドリブル・パス・ショット）
1対1・2対2の練習に取り組もう

10

2. マンツーマン推進のこれまでの取り組み

2015	12月	①マンツーマンディレクター会議、都道府県にディレクター設置を依頼
2016	3月	①ジュニアオールスター、①全国ミニ
	8月	①福井全中
	12月	②マンツーマンディレクター会議
2017	3月	②ジュニアオールスター、②全国ミニ
	8月	②沖縄全中
	12月	③マンツーマンディレクター会議 課題アンケート実施、U12技術不足は罰しない、U15予測を許容
2018	3月	③ジュニアオールスター、③全国ミニ
	8月	③山口全中
	12月	④マンツーマンディレクター会議 目的・方向性提示 山口全中を受けて、プレスタウン映像・ドリル
2019	3月	④ジュニアオールスター、④全国ミニ
	8月	①全中ブロック大会にて講習会、④和歌山全中 心情をはさまず判定、オフボールのポジショニングビジョン
	12月	⑤マンツーマンディレクター会議
2020	3月	コロナ禍により全国ミニ、U15選手権プレ大会中止
	8月	コロナ禍により三重全中中止
	12月	⑥マンツーマンディレクター会議 コロナ禍・今後の方向性
2021	1月	①U15選手権
	3月	⑤全国ミニ
	4月	①マンツーマンディレクター講習会 映像資料
	8月	②全中ブロック大会にて講習会、⑤群馬全中 連続トラップの解釈 人→人OK エリア×
	12月	⑦マンツーマンディレクター会議 webにてディスカッションの実施
2022	1月	②U15選手権 JBA推薦枠導入
	3月	①ブロック別マンツーマン会議 webにてディスカッションの実施
		⑥全国ミニ
	4月	U12改善案検討
	6月	⑧マンツーマンディレクター会議 U12改善案方向性提示
8月	⑥北海道全中、⑨マンツーマンディレクター会議 U12改善案再度説明	

丸数字は実施回数を示す

3. マンツーマン推進の経緯、直近の課題、対応策

1. 経緯

マンツーマン推進は2015年から**FIBAタスクフォースからのオーダー**により設置。

育成課題を考える大きな機会となっている。

「なぜマンツーマンをするべきなのか？」 = 「勝利第一でなくその年代で優先させることを学ぶため」

U12では1989年に白紙に戻した経緯があり、厳しめに実施。

U15では予測の許容、トラップ三要件なしなど、一般バスケットボールに近い形を取った。

2. 直近の課題

- ① 子どもたちが旗をあげられることにより萎縮しているのではないか。
- ② 子どもたちの自由な発想を奪っているのではないか。
- ③ マンツーマンコミッショナーの判定基準のバラツキがあるのではないか。

3. 対応策

- ① ゲームを楽しむ環境作りのために **「黄色旗の基準を変更」**
- ② U12においてもU15と同様に自由の幅を広げるために **「予測の許容・トラップ三要件を撤廃」**
- ③ **コミッショナーへの伝達**に加え、**U12U15指導者への伝達**を強化
 - マンツーマンの意義「なぜマンツーマンを行うべきか」 = 「育成世代の考え方」
 - U12U15世代で指導すべきオフェンスの技術戦術
 - マンツーマンディフェンスの指導方法

6/17 マンツーマンディレクター会議アンケート結果

- ・回答数64名(マンツーマンディレクター74名、U12ユース育成マネージャー44名)回答率54%
- ・提案への賛成 **76.6%**
- ・個別案件賛成%
 - ①U12予測許容 **60.9%**
 - ②U12トラップ三要件撤廃 **60.9%**
 - ③U12U15黄色旗基準変更 **59.4%**
 - ④U12U15都道府県別運用 **60.9%**
 - ⑤U12U15赤旗1回目対応変更 **96.9%**

8/26 マンツーマンディレクター会議アンケート結果

- ・改編の意図を再度資料を踏まえて説明、アンケートの反対意見に対してマンツーマン推進プロジェクトの意図を説明した。
- ・回答数63名(マンツーマンディレクター74名参加)回答率85%(U12=29名、U15=34名)
- ・提案への賛成 76.6% → **92%**(U12=86%、U15=97%)
- ・個別案件賛成%
 - ①U12予測許容 60.9% → **92%**(U12=83%、U15=100%)
 - ②U12トラップ三要件撤廃 60.9% → **81%**(U12=69%、U15=91%)
 - ③U12U15黄色旗基準変更 59.4% → **84%**(U12=76%、U15=91%)
 - ④U12U15都道府県別運用 60.9% → **75%**(U12=66%、U15=82%)

■ 直近の課題

- ① 子どもたちが旗をあげられることにより萎縮している。
- ② 子どもたちの自由な発想を奪っている。
- ③ 判定基準のバラツキ

■ 対応策

- ① 旗が上がる回数を減らすために「**黄色旗の基準を変更**」
- ② U12においてもU15と同様に自由の幅を広げるために「**予測の許容・トラップ三要件を撤廃**」
- ③ **コミッショナーへの伝達**に加え、**U12U15指導者への伝達**を強化
 - マンツーマンの意義「なぜマンツーマンを行うべきか」 = 「育成世代の考え方」
 - U12U15世代で指導するべきオフェンスの技術戦術
 - マンツーマンディフェンスの指導方法

■ 今後

2023年度（2023年4月以降）に実施

- 全国大会（U12/U15）先行実施するかは、実施委員会と協議
（都道府県予選では適用しない）
- ディレクター・コミッショナー及び指導者への伝達機会を創出

6-1 黄色旗をあげる基準とは

- ・これまで：基準規則に違反した時は黄色旗を挙げる（基準規則第9条）
 - ①あるべきマンツーマン ②ゾーンではないがあるべきではない状態
 - ③ゾーンディフェンス の中で、③は赤色旗（ペナルティ）になる
- U12では、②③で黄色旗を挙げる。
- U15では、予測して動くことを許容したので、②の時は挙げない。
- U15はU12より旗が上がる回数は少ない。基準の違いがあった。
- ・これから
 - U12もU15と同じ基準として、②の時は挙げず自由度を上げたい。

6-2 自由度を高めるとは

- ・危険を察知して、あるべきポジションを離れて危険なエリアを守りに行くことは、重要な良いプレーであり、「予測力」を高める事は重要。
- ・これまで
 - U12では教育的観点よりマンツーマンを根付かせるため「予測の行動」を制限してきた
- ・これから
 - あるべき本来のバスケットボールの姿に近づけるべきとの判断から自由度を高め（予測の許容）プレイヤーの判断に委ねるようにしたい。
 - トラップに関する3条件については、上記同様の理由で撤廃したい。

6-3 都道府県での運用

- これまで
 - **技術不足のチーム、年代の多様化（選手不足）、MCの人材不足** など
- これから、**マンツーマンディフェンスを適用する前提**で
 - 都道府県の裁量でレベルに応じた適用を考えることを認めたい。
 - 但し、ブロック・全国大会に繋がる**都道府県予選の上位では必ずマンツーマンコミッショナーを配置して行くことは継続**する。

6-4 赤旗1回目の再開方法

- これまで
 - 赤旗が挙げられた際、1回目は注意のみ。再開は**悪質なディフェンスをしたチームのボールから再開**。→ **不公平感**が強かった。
- これから
 - 再開は**止まるまで攻撃をしていたチームのボールから再開**。
 - **不公平感の解消のため**。この変更には98%（アンケート調査）が賛成。
- この部分のみ**先行実施したい（その他は2023年度導入）**
 - U15選手権（実施委員会了解済み）、全国ミニ（今後提案）